

第59回運営小委員会 議事録

1. 開催日時：令和7年6月4日（水） 10:00～12:30
2. 開催場所：島根原子力発電所1号館5階集会室及びTeamsによるハイブリッド開催
3. 出席者：河村・藤原（電中研）、長瀬・伊藤・清水（日立GE）、杉野（IEEJ）、室屋（阪大）、山下（東大）、柴崎・青井・高木（東芝ESS）、大橋（オルガノ）、莊田・前田（三菱重工）、平（東京電力）、大村（中部電力）、中野（日本原電）、端（JAEA）
【敬称略、順不同】

4. 議事

(1) 新任委員の挨拶

新しく選任された青井委員、大村委員、清水委員、中野委員の挨拶があつた。

(2) 前回議事録確認

コメント等は無く、承認された。

(3) 定例研究会について

前田委員より、今後の定例研究会の計画について説明があった。第52回の定例研究会の幹事会社を四国電力殿に依頼しており、11/19または12/10の日程で屋島の総合研修所にてハイブリッド形式とする方向で調整中である旨の報告があった。基調テーマは高経年化対策の取り組み事例で検討中である。また、第53回は3月中にオルガノ(株)殿での開催を想定しており、元日本原電の目黒氏に講演依頼する方向で調整を進めることになった。対面形式とし、目黒氏の講演+受賞講演という構成とする案や、原子力以外の超純水に係る開発紹介、副資材、分析技術などを基調テーマとする案について議論した。テーマについては企画WGで継続議論することとした。

(4) 広報関連活動状況と2025年度部会報の内容案について

藤原委員より、HPの改訂等の活動状況について報告があった。また、部会報の目次について議論がなされ、巻頭言は室屋副部会長に執筆いただくことになった。そのほか、原子力安全、再稼働、新型炉、NPC2025報告等の内容で構成を検討することになった。

(5) 2025 年度サマーセミナーについて

柴崎委員より、サマーセミナーの準備状況について説明があり、主に収支案について議論を行った。参加数の見込みを精査したうえで、後日メール審議により参加費を確定することとした。

(追記：運営小委員会後のメール審議により、部会員 20,000 円（不課税）、学
会員 22,000 円（不課税）、学生会員無料、非会員/学生非会員 25,000 円（税込
み）と決定した。)

(6) 部会賞選考小委員会について

端委員より、今期の運営小委員会委員からの部会賞選考委員の選出について
提案があり、人選について議論した。

(7) 水化学部会運営小委員会細則の見直しについて

端委員より、運営小委員会細則の見直し案が提示され、小委員会選挙の投票
方法にウェブのフォームの利用を追加し、郵送を廃止すること、委員会の代理
出席を認めることについて協議した。代理出席の範囲については部会員に限る
こととし、原則として欠席する委員と同じ所属機関の者とすることとした。

(8) 「1F 廃炉に係る核分裂生成物挙動」研究専門委員会活動報告

高木顧問より、「過酷事故時及び事故後の放射性物質挙動」研究専門委員会の活動報告があった。これまでに検討してきた核分裂生成物に限らず事故時の放射性物質を広く対象とすること、また過酷事故プラントの廃止措置に限らず他の対象施設にも役立てること等を想定して活動を展開している旨の報告があった。

(9) 部会等運営委員会報告

平委員より、部会等運営委員会の報告があり、春の年会をオンライン開催とすることの廃止が決まったこと及び秋の大会の準備状況について報告があつた。

(10) NPC2029 国内開催について

河村委員より、NPC2029 の日本誘致に向けた提案資料の方針について確認依頼があつた。

(追記：9月に開催された NPC2025において、NPC2029の立候補を見送ると思われていた英國が開催意思を表明したことから、2029日本開催は見送ることになった。)

(11) その他

- ・持続可能な体制検討 WG（仮称）検討状況について

端委員より、持続可能な体制検討 WG についての検討状況の説明があった。

活動内容として、若手からの提言等を踏まえた研究プロジェクト化や NPC 日本開催時のセッションテーマの検討等を検討している旨の報告があった。今後若手・中堅の部会員を中心にメンバー募集を検討する

- ・ANEC 北海道大学拠点からのオンライン教材作成依頼について

端委員より、ANEC 北海道大学拠点からの教材提供依頼について説明があった。学会を通さない現行の依頼の形で部会として受けるのは難しいとの見解が出ており、他部会の対応がどうなっているのか、引き続き端委員にて情報収集することになった。

以 上